

関東甲信越支部長活動報告

2011年2月



支部長 上浪 寛

支部執行部からのメッセージ

UIA 東京大会開催まで約 200 日となりました。JIA は UIA とこの大会開催の契約をし、運営の責任を負っており、その実行を JOB に委託しています。プログラムはようやく決まって来ましたが、寄付並びに大会参加登録者の呼びかけはまだ不十分です。関東甲信越支部は支部支援金の形で 2 年度に渡り全支部会員から集めることを 2010 年支部総会で決議しました。残念ながら 1 年目は目標から 300 万円ほど不足しており、未納入者に対して更なるお願いをしています。来年度については是非とも会費の納付期限である 6 月末までに会費と一緒に納入頂きますようお願い申し上げます。昨年の総会決議議案でも挙げておりますが、支援金とは別に個人、法人からの寄付を随時受け付けておりますので、何とぞご協力をお願い申し上げます。また大会参加登録の推進は大会を盛り上げ、成功に導くため最も重要な事となります。関東甲信越支部は現在 500 人にとどまっており、目標の 1,800 人には遠く及びません。会員の皆様には、様々な場面で UIA 大会参加へのお声かけの運動をお願い申し上げます。今後は大会運営体制の確立に JIA として参画する場面も出てくると思いますので、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げますと共に、大会当日は UIA 大会を充分楽しんで頂きたいと思っております。

支部長活動報告

- 1 日 青年 WG 支部勉強会を開催する。特に若手会員や建築家予備軍にとってモチベーションを感じる事業を考える勉強会で、国際活動とリンクしたワークショップ事業を考えている。途上国支援を行っている JICA から協力を得ることを念頭に打合せを進めることにする。
- 2 日 「一万人の建築家展」実行委員会(仮)が開かれる。1 月 13 日の開始から 100 名程になった。海外へのアピール、国内向けアピール、今後の特別展示の方向性などを協議する。電子ブックにもなりうるもので、デジタルの利点を活用した可能性を考えていく方針だ。資格制度 WG が開かれる。建築家資格制度の広報を刷新しなければならない。士会との 2 会合意に向けた会議も活発になっており、秋の UIA 東京大会までに大枠合意を目指している。法・資格制度合同諮問会議が開かれる。国交省基本法制定勉強会には業界団体のメンバーが入っていないため 4 会合同で提案していく。士会

- との資格制度合意については2002年2会長合意に沿って進められている。また、士会の制度の内、一級建築士に限った2制度合流となる。UIA基準をベースとした新しい基準を、JIAのためでなく海外相互認証する日本のために作ることを目標とする。
- 4日 全国支部長会議を、関東甲信越支部役員をオブザーバーとして加え、岩本組川奈研修所にて開催した。全国支部の活動状況を報告しあう。その他、来年度会費値上げに対する各支部の様子やUIA東京大会準備状況を確認し合った。その後の懇親会は夜半まで続いた。翌日は車に分乗して伊東、伊豆高原、熱海の重要文化財建築等を見て歩いた。
- 8日 拡大資格制度委員会が開かれた。支部によって委員の年数に大きな差がある。全ての支部で長期に渡る委員の任期を適性に是正しようと努力している。相変わらず登録建築家制度への理解度が低く、今年度末の再登録者数の激減が予想される。業務独占の資格でない限り運動論であり、一級建築士制度改正モデルとしての意義を再確認すべきだろう。
- 9日 会員種別WGが開かれる。25日の理事会に向けて協議する。正会員のアーキテクト会員は現行登録建築家会員と同等以上とし、登録建築家の資格要件である1級建築士登録後5年以上の実務経験を持つこととする。現行の非登録建築家会員のカテゴリーを残す要望があるため、OB会員として会員規則で検討する。
- 14日 交流委員長と交流委員会の課題について協議する。その後支部総務委員会で総務委員長と協議し、交流委員会の特殊性を確認。委員会規定に縛られない特例を検討することにする。
- 15日 支部組織再編検討会議(支部委員会再編)が開かれる。昨年9月9日から始まった支部組織再編検討会議は支部役員会での協議も入れて6回目となる。支部役員会答申への最終案が固まった。現在単独に活動している実行委員会を事業委員会(市民との接点を意識した事業)、教育事業委員会(次世代を担うヤングアーキテクト対応を念頭に置いた事業)という2つのグループに組織し直し、連携を強化し効率向上を目指す。交流委員会については委員会規定を適用することになじまないと判断し、(仮称)交流活動会議を創設し、支部の重点活動と位置付ける。顧客支援システム委員会については当初の基本的事項が守られていない事を指摘し、今後の活動方針について委員会内で協議した結果を役員会に報告することを求める。
- 17日 組織再編諮問会議+定款改定WG合同会議が開催される。今回の定款改定のポイントは目的、事業、会員種別の改定と地域会の位置付けを明記することである。支部の中に地域会があることを定款に明記すべきか否か大きな議論になった。会員種別の準会員は建築家に準ずるカテゴリーとする。現行の協力会員(建築関連の専門実務者を定義しているが現状5名以下)

- は廃止するが、新たに協力会員を非建築家のサポーターとして定義し直すこととする。準会員の中にシニア会員(現行の非登録建築家)を加える。また、現行の賛助会員は新たな協力会員の中に定義する。
- 18日 青年WG支部勉強会を開く。JICAに対し、若手建築家を対象にしたワークショップを共催することを提案する。UIA大会後にも継続的に続ける事業と考えている。
- 19日 建築5会会長シンポジウムが建築会館で開催される。必ずしも意見が纏まっているわけではないが、5会が一本化して国や社会に対して発信していくことの重要性は全5会で共有している。このシンポジウムでUIA東京大会に向けて5会合同で宣言を出すことが確認された。
- 21日 JICA アフリカ部長の押山氏、副部長の加藤氏と面談する。社会と向き合う新生JIAとして、持続可能な社会実現のため世界の問題に向き合うことは、建築家の社会的責任と考える。世界が直面している問題を若手建築家の目で体体験するワークショップを、UIA東京大会をきっかけとした国際貢献活動として、JICAと協同して進めたいという趣旨を申し伝え、前向きな返答を得る。
- 22日 国際委員会が開かれる。今年のJIA大会はUIA大会とする。例年の大会で開催される相互協定締結国との個別国際会議は開催せず、他国を交えた国際交流の場に変えることとする。JICAとの協同プロジェクトへの参加を全国支部で共有するため、本部国際委員会WGとして担当することにする。
- 24日 「一万人の建築家展」実行委員会(仮)が開かれる。200人を突破したが、2月以降は登録の7割が東京から遠く離れた地の外国人だ。JIA会員の全員参加、建築他会はじめ組織的な参加が望まれる。3月中にキュレーターによるウェブ特別展示の整備を予定している。例えば地域会キュレーションによる記事を付けて、ウェブ内で特別展示を開催するというものだ。
- 25日 UIA推進特別委員会が開かれる。各支部の進捗状況が報告される。参加登録が遅々として進んでいない。関東甲信越支部は、特にお膝元東京における顔が見えない会員の皆さんへのアプローチに苦慮している。これからは大きな危機感を会員が持って進めて行かないと、あっという間に大会当日になってしまう。午後は本部理事会が開催される。7時間に及ぶ会議となった。2011年度予算策定方針、三春町設計施工一括コンペ対処、定款改定案、本部事務局改革などの協議が行われ、組織再編、財政再建、法資格制度の3諮問会議報告、全国卒業設計コンクール報告、UIA大会特別推進特別委員会などの報告を中心に議論した。
- 26日 神奈川地域会の建築祭が開催された。逗子市長の平井氏をパネラーの一人として迎え、昨年行われた逗子市プロポーザルコンペを題材に、住民に愛され誇りを持つことができる街並みを作るにはどのようにすればよいの

か?をテーマにシンポジウムが行われた。JIA 版 CUBE の具体的サンプルとして成功させるため、森岡代表はじめ皆さんが尽力されている。今後は全国へこの JIA 版 CUBE が運動論として展開していくことを期待したい。



支部長活動報告 2011年2月

2011年2月28日作成 上浪 寛



「UIA 東京大会」

<http://www.uia2011tokyo.com/ja/>

「一万人の建築家展」

<http://www.10000architects.com/>